

【今週の注目疾患】

《レジオネラ症》

2024年第23週に県内医療機関から3例のレジオネラ症が届出され、2024年の累計届出数は33例となった。レジオネラ症は1年を通して発生がみられるが、夏から秋にかけて届出が多くなる傾向があるので、引き続き発生動向を注視していく必要がある（図1）。

2015年から2024年第23週までに県内医療機関から届出のあった817例の内容は以下のとおり。

病型別では肺炎型が772例（94%）、ポンティアック熱型が38例（5%）、無症状病原体保有者が7例（1%）であった。性別では男性が667例（82%）、女性が150例（18%）と男性が約8割を占めた。年代別では、60代が215例（26%）と最も多く、次いで80歳以上が206例（25%）、70代が197例（24%）であり、60歳以上が約8割（618例）を占めた（図2）。

届出票に記載のあった症状・所見（重複あり）は、肺炎737例（90%）、発熱732例（90%）、咳嗽302例（37%）、呼吸困難276例（34%）、意識障害112例（14%）、下痢80例（10%）、多臓器不全72例（9%）、腹痛21例（3%）であった。

推定される感染原因・感染経路（重複あり）は、水系感染が224例（27%）、塵埃感染48例（6%）であった。

図1：2015年～2024年の診断月別レジオネラ症届出数
（2024年第23週現在 n=817）

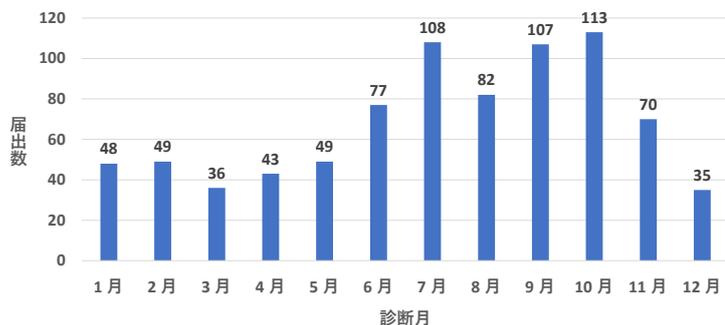
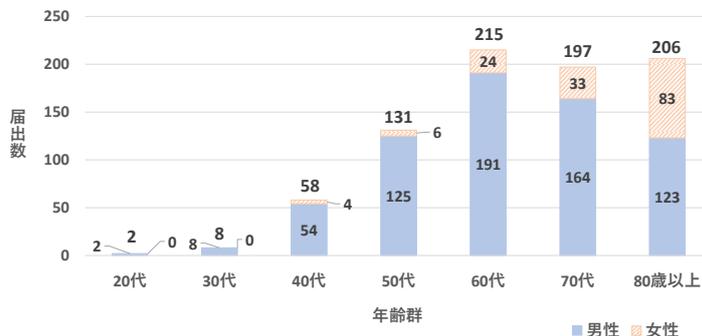


図2：2015年～2024年の性別年齢群別レジオネラ症届出数
（2024年第23週現在 n=817）



レジオネラ症は、レジオネラ属菌による細菌感染症であり、主な病型として重症の肺炎を引き起こすレジオネラ肺炎と、一過性で自然に改善するポンティアック熱がある。レジオネラ属菌は、土壌や水環境に広く存在する菌である。感染経路としては、エアロゾルを発生させる人工環境（循環水を利用した風呂、加湿器、噴水等の水景施設、空調設備の冷却塔等）を感染源とするエアロゾル感染、汚染された温泉浴槽水や河川の水を吸引・誤嚥したことによる感染、汚染された土壌の粉塵を吸い込んだことによる塵埃感染などがある^{1,2)}。

レジオネラ肺炎の潜伏期間は2～10日である。全身倦怠感、頭痛、食欲不振、筋肉痛などの症状に始まり、咳や38℃以上の高熱、寒気、胸痛、呼吸困難がみられるようになる。意識レベルの低下、幻覚、手足が震えるなどの中樞神経系の症状や下痢がみられるのも特徴である。適切な治療がなされなかった場合には、急速に症状が進行し、死亡に至ることもある²⁾。

ポンティアック熱の潜伏期間は1～2日である。突然の発熱、悪寒、筋肉痛で始まるが、一過性で治癒する¹⁾。

高齢者や新生児は肺炎を起こす危険性が通常より高いので注意が必要である。また、大酒家、喫煙者、透析患者、移植患者や免疫機能が低下している人は、レジオネラ肺炎のリスクが高いとされている²⁾。

対策としては、追い炊き機能付きの風呂や24時間風呂などの循環式浴槽を備え付けている場合には、配管や浴槽内に汚れやぬめり（バイオフィーム）が生じないように定期的に清掃を行うなど、取扱説明書に従って維持管理をすることが重要である。また、超音波振動などの加湿器を使用する時には、毎日水を入れ替えて容器を洗浄することが大切である²⁾。エアロゾルが発生する高圧洗浄作業や、粉塵が発生する作業、腐葉土を取り扱う園芸作業をする場合にはマスクを着用して感染を予防していただきたい¹⁾。

■引用・参考

1) 国立感染症研究所：レジオネラ症とは

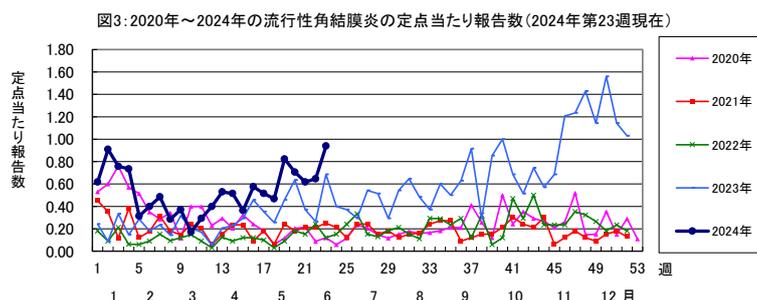
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/530-legionella.html>

2) 厚生労働省：レジオネラ症

https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_00393.html

《流行性角結膜炎》

2024年第23週に県内の眼科定点医療機関から報告された流行性角結膜炎の定点当たり報告数は、0.94（人）であった（図3）。過去5年間の同時期（第23週）と比較して定点当たり報告数が多く、今後の発生動向に注意が必要である。



流行性角結膜炎はアデノウイルスによる疾患で、潜伏期間は8～14日である。急に発症し、眼瞼の浮腫、流涙、耳前リンパ節の腫脹を伴う。感染力が強いため両方の眼が感染しやすいが、初発眼の症状がより強い。角膜に炎症が及ぶと透明度が低下し、混濁は数年に及ぶことがある。新生児や乳幼児では偽膜性結膜炎を起こし、細菌の混合感染で角膜穿孔を起こすことがあるので注意を要する¹⁾。

感染経路は接触感染であり、ウイルスに汚染されたタオルやティッシュペーパー、洗面器に触れるなどして感染する。家庭内での感染を防ぐためには接触感染予防の徹底が重要であり、こまめに手洗いを実施し、タオルや点眼液など目に接触するものは個人用とする¹⁾。

■引用・参考

1) 国立感染症研究所感染症疫学センター：流行性角結膜炎とは

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/528-ekc.html>